

平成 2 3 年度事務事業評価調書

平成 2 3 年度作成

平成 2 2 年度 実施事業	事務事業名 救える命があります！
-------------------	-------------------------

区分	番号	名 称
章	1	やさしさと共生するまち
節	2	市民一人ひとりが生涯を通じて健康に暮らせるまちをつくる
施策	3	地域医療の充実
小分類	2	救急医療体制の整備
主要な施策	1	救急医療体制の整備
事務事業番号	008	事務事業コード 12321008 事業開始年度 平成 2 1 年度 事業終了年度 平成 2 3 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	2010救える命があります！
------	------	------------	----------------

部 名	消防本部	グループ名	総務 G
-----	------	-------	------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記載してください) 救急医療体制の整備を行う。
手段(事業の内容・活動)	(目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください) 1、AEDレンタルサポート 市民が集まるイベント等にAEDを貸出し、救命処置に備える。 2、救急救命講習会の強化 救命率の向上を図るため、現在行っている救急救命講習に加え、定例救命講習を実施する。 3、救急自動車適正利用に関するPR活動の強化 市民に救急自動車の適正利用を呼びかけ、安易な救急要請の増加を防止する。 4、消防・救急フェスティバル 市民と消防が身近にふれあい各家庭への防火意識の促進、救急救命の知識と消防・救急業務への理解と認識を深める。 5、防火対策啓蒙活動の強化 市民の防火意識と警戒心を喚起し、火災の未然防止及び人命・財産等の被害を軽減する。 6、住宅用火災警報器の普及啓発活動の強化 リーフレット及び啓発グッズの配布、展示パネルの設置、相談窓口を設ける。
成果	(事務事業の実施成果を具体的に記載してください) 1、各イベントでAEDを貸出し平成22年度16回の実績があった。 2、救急救命講習会は平成22年度80回の開催があり、1,301名が受講した。 3、救急車適正利用のリーフレットを1,949枚配布した。 4、消防・救急フェスティバルを開催し市民約1,000名の来場があり盛況であった。 5、住宅火災による死傷者撲滅のため、住宅用火災警報器の全世帯への設置を呼び掛けており、平成23年3月現在の設置率は58.3%に向上した。(前年同月比約23%増)
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください) 消防法

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	AEDのレンタルサポート	回	目標値	25	25	25	25	25
			実績値	16				
	消防・救急フェスティバル	人	目標値	700	700	700	700	700
			実績値	1,000				

事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円	1,086	1,100	450	450	450	1,350
合 計				1,086	1,100	450	450	450	1,350
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	199	204			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		199	204			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 尊い命を救うため、市民が救急救命の知識を学ぶ大切さを認識するとともに、傷病者の救命率の向上を図る。さらに、防火対策啓蒙を強化することで火災からの逃げ遅れを防ぎ、安全で安心なまちづくりが推進できる。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ AEDのレンタルも市内16のイベント（野球大会・運動会・レレージョン等）に貸出され救命処置に備えた。また、救急講習会の延べ1,301名の受講があり、さらに女性消防団員を救命講習指導員として養成し救命講習会の強化を図った。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ AEDをイベント会場に設置することでAEDの意義・必要性を市民が理解でき、また女性消防団員の応急手当指導員の養成を図り救命講習会の強化を図ることができる。消防・救急フェスティバルを通し市民と消防がふれあうことで救命や防火意識を向上させることができる。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 市民と共に安全で安心できるまちづくりのため、応急手当の普及や救急車の適正利用・防火意識の啓蒙・住宅用火災警報器の設置普及等に幅広く展開してきたが、事業を再検討し創意工夫の上、成果が得られるよう経常的に展開していく。

担当グループによる評価

終了	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	市民がAEDの使用方法も含めた救急救命講習会で知識と技術を学び、傷病者の迅速な応急手当を行うことで救命率の向上が図れる。消防・救急フェスティバルを行い市民の防火意識の高揚を図る。さらに、住宅用火災警報器を普及することで火災からの逃げ遅れを防ぐなどで安全で安心して暮らせるまちづくりを構築するため必要な事業である。なお、平成23年度実施をもって明日のまちづくり特別枠事業としての実施は終了し、平成24年度以降は経常的に実施していくため、予算規模を縮小するなど、内容精査のうえ、事業を展開していく。
----	----------------------	---

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

終了	備考
----	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）